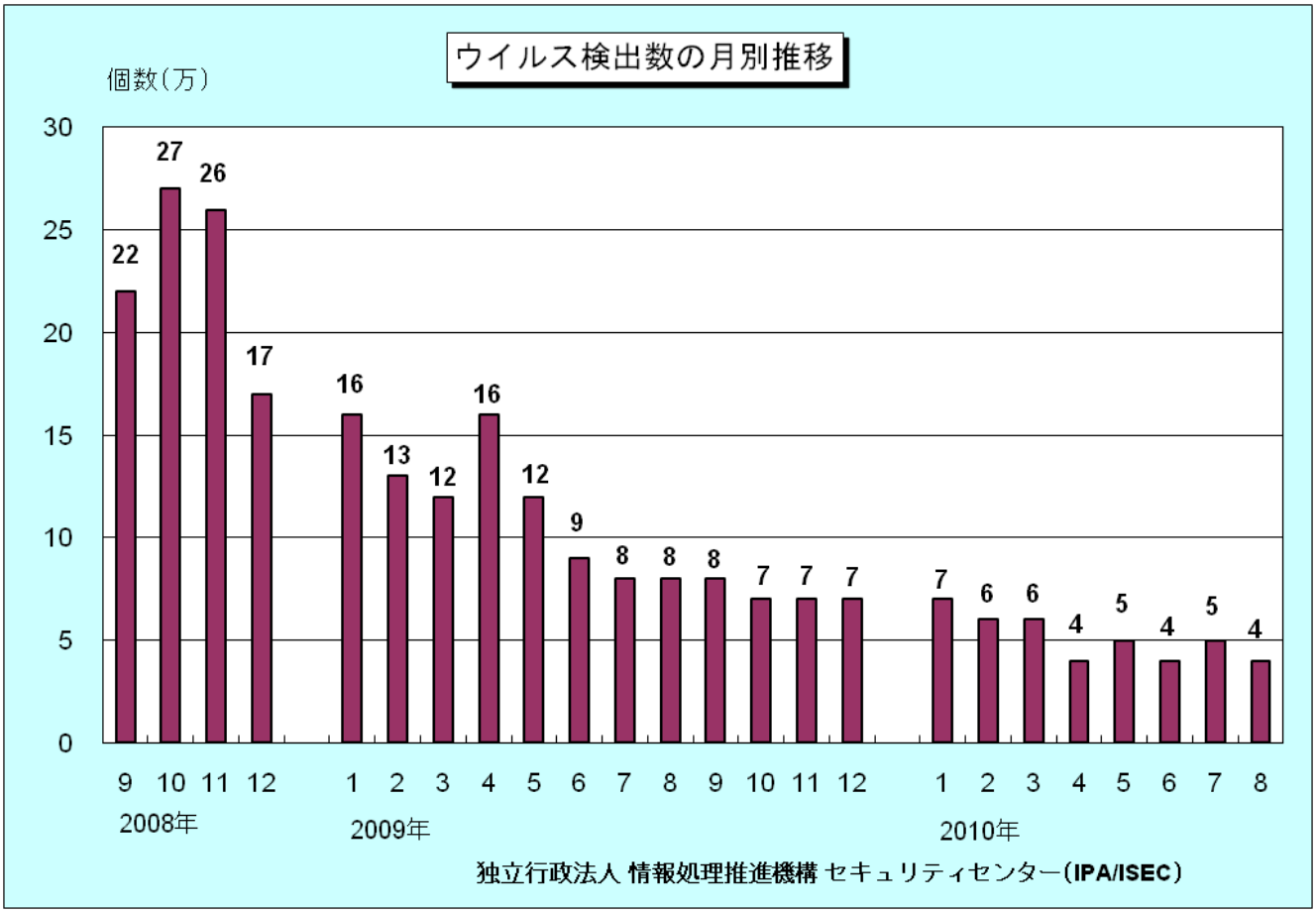
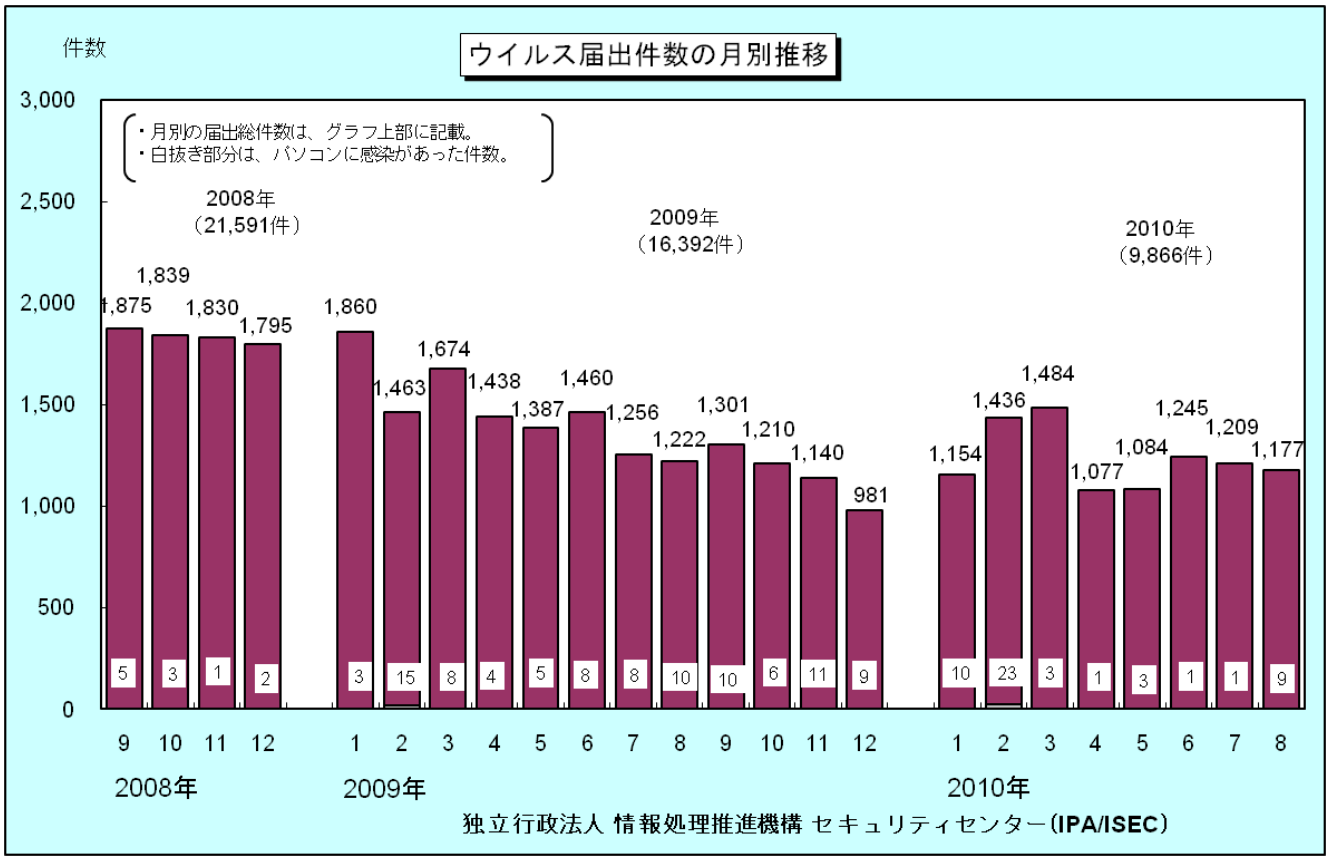
別紙 1

コンピュータウイルスの届出状況［2010 年 8 月分］について

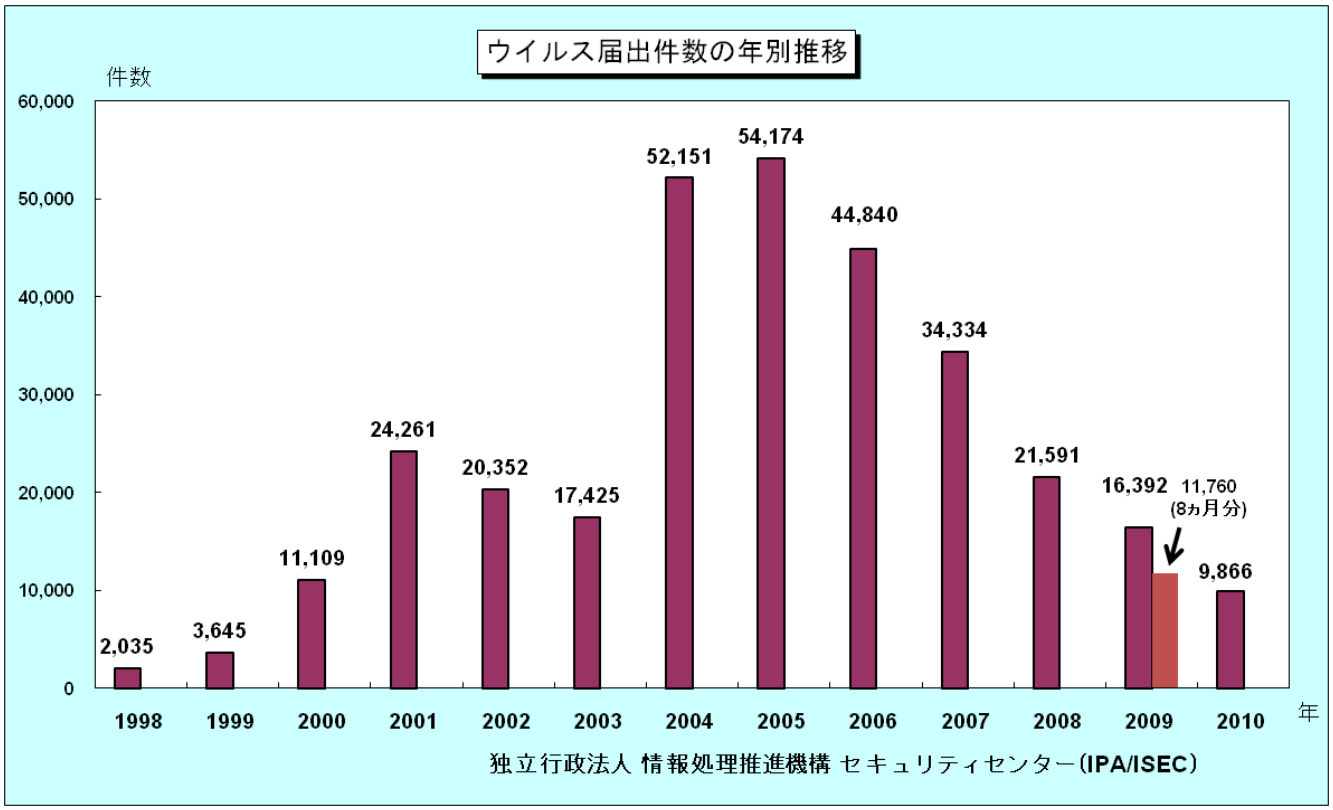
1. ウイルス検出数の月別推移



2. ウイルス届出件数の月別推移



3. ウイルス届出件数の年別推移



4. 8 月の届出ウイルス

ウイルスの種類は 52 種類で、Windows/DOS ウイルス 1,148 件、スクリプトウイルス及びマクロウイルス 29 件でした。

i）Windows　　(※)印は今月の新種ウイルス

Windows/DOS ウイルス	届出件数
W32/Netsky	224
W32/Mydoom	153
W32/Autorun	147
W32/Mytob	117
W32/Mumu	74
W32/Klez	56
W32/Downad	48
W32/Virut	47
W32/Mywife	37
W32/Koobface	36
W32/Waledac	32
W32/Palevo	29
W32/Blakcont (※)	28
W32/Sality	27
W32/Gammima	13
W32/Bagle	10
W32/Allaple	9
W32/Funlove	6
W32/Fujacks	4
W32/Stuxnet (※)	4
Anti-CMOS	3
W32/Fakerecy	3
W32/Lovgate	3
W32/Mimail	3
W32/Nimda	3
W32/Parite	3
W32/Whybo	3
W32/Bacterra	2
W32/Dumaru	2
W32/Harakit	2
W32/Sohanad	2
W32/Stration	2
W32/Zafi	2
W32/Almanahe	1
W32/Antinny	1
W32/Bugbear	1
W32/Chir	1
W32/Dronzho	1
W32/Gaobot	1
W32/Imaut	1
W32/Induc	1
W32/IRCbot	1
W32/Joydotto	1
W32/Mabezat	1
W32/Nuwar	1
W32/Tenga	1
W32/Valla	1
小計	1,148

スクリプトウイルス	届出件数
VBS/Solow	14
VBS/Lido	1
VBS/SST	1
小計	16

マクロウイルス	届出件数
XM/Laroux	10
XF/Sic	3
小計	13

ii) Macintosh	
なし	

iii) OSS（OpenSourceSoftware）: Linux・BSD を含む、UNIX	
なし	

iv)携帯端末	
なし	

備考：件数には亜種の届出を含む

（参考）
- Windows/DOS ウイルス
  Windows、MS-DOS 環境下で動作するウイルス。
- マクロウイルス
  Microsoft Word や Microsoft Excel などのマクロ機能を悪用するウイルス。
- スクリプトウイルス
  機械語への変換作業を省略して実行できるようにした簡易プログラムで記述されたウイルス。

注）ウイルス名欄での各記号はそれぞれ下記の内容を示す。

記号	対象ウイルス
W32	Windows32 ビット環境下で動作
XM	Microsoft Excel95、97（ExcelMacro の略）
WM	Microsoft Word95、97（WordMacro の略）
W97M	Microsoft Word97（Word97Macro の略）
X97M	Microsoft Excel97（Excel97Macro の略）
VBS	VisualBasicScript で記述
Wscript	WindowsScriptingHost 環境下で動作（VBS を除く）
JS	JavaScript で記述
XF	Microsoft Excel95、97 で動作するウイルス。（ExcelFormula の略）

5. 8 月に IPA に初めて届出のあったウイルスの概要

（1）W32/Stuxnet（スタックスネット）

このウイルスは、USB メモリ等の外部記憶媒体を介して感染を拡大します。

感染すると、自分自身のコピーをパソコン内に作成し、パソコン起動時に実行されるようにシステムを改変します。その後、アクセス可能な外部記憶媒体に、自分自身のコピーを作成することで感染を拡大します。

なお、Windows の脆弱性(MS10-046)を悪用しており、ウイルスファイルをエクスプローラで表示しただけで感染する機能を有しています。

（2）W32/Blakcont（ブラックコント）

このウイルスは、メールの添付ファイルや P2P ファイル共有ソフトを介して感染を拡大します。

感染すると、自分自身のコピーをパソコン内に作成し、パソコン起動時に実行されるようにシステムを改変します。また、パソコン内のファイルからメールアドレスを収集し、取得できたメールアドレスに自分自身のコピーを添付したメールを送信します。

さらに、P2P ファイル共有ソフトの公開（共有）フォルダに自分自身のコピーを作成することで、感染を拡大する活動を行います。

6. 届出者別件数

一番多い届出は、一般法人ユーザからのもので、約 95%を占めています。

届出者	届出件数					
	2010 年 8 月		2010 年 7 月(前月)		2009 年 8 月(前年同月)	
一般法人ユーザ	1,116	94.8%	1,136	94.0%	1,173	96.0%
個人ユーザ	1	0.1%	2	0.2%	3	0.2%
教育機関	60	5.1%	71	5.9%	46	3.8%
合計	1,177		1,209		1,222	

7. 感染(発見)経路別件数

メールにより感染(発見)したケースが最も多く、届出件数の約95%を占めています。

感染(発見)経路	届出件数					
	2010 年 8 月		2010 年 7 月(前月)		2009 年 8 月(前年同月)	
メール	1,116	94.8%	1,111	91.4%	1,174	96.1%
ダウンロード(※)	2	0.2%	0	0.0%	4	0.3%
外部からの媒体	4	0.3%	1	0.2%	9	0.7%
ネットワーク	52	4.4%	97	8.4%	33	2.7%
不明・その他	3	0.3%	0	0.0%	2	0.2%
合計	1,177		1,209		1,222	

(※)ホームページからの感染を含む

8. 感染台数

感染台数	届出件数					
	2010年8月		2010年7月（前月）		2009年8月（前年同月）	
0台	1,168	99.2%	1,208	99.9%	1,212	99.2%
1台	7	0.6%	0	0.0%	6	0.5%
2台以上　5台未満	2	0.2%	0	0.0%	2	0.2%
5台以上 10台未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10台以上 20台未満	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
20台以上 50台未満	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
50台以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	1,177		1,209		1,222	

・コンピュータウイルスに関する届出制度について

コンピュータウイルスに関する届出制度は、経済産業省のコンピュータウイルス対策基準に基づき、平成2年4月にスタートした制度であり、コンピュータウイルスを発見したものは被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報をIPAに届け出ることとされています。

IPAでは、個別に届出者への対応を行っていますが、同時に受理した届出等を基に、コンピュータウイルス対策を検討しています。また受理した届出は、届出者のプライバシーを侵害することがないように配慮した上で、被害等の状況を分析し、検討結果を定期的に公表しています。

○コンピュータウイルス対策基準

- 通商産業省告示第139号　平成2年4月10日制定
- 通商産業省告示第429号　平成7年7月7日改訂
- 通商産業省告示第535号　平成9年9月24日改訂
- 通商産業省告示第952号　平成12年12月28日改訂
- 経済産業省告示第2号　平成16年1月5日改訂

■お問い合わせ先
IPA セキュリティセンター　花村／加賀谷
Tel:03-5978-7527　Fax:03-5978-7518
E-mail: isec-info@ipa.go.jp